四國遍禮靈場記

[illegible]

内閣文庫

類	號	冊	架
和書	三六五四九	七	一九二 函 一二

備用史料

内閣文庫

番號	和	36549
冊數	7(4)	
函號	192	93

[illegible] 一 三

四國遍禮霊場記巻四

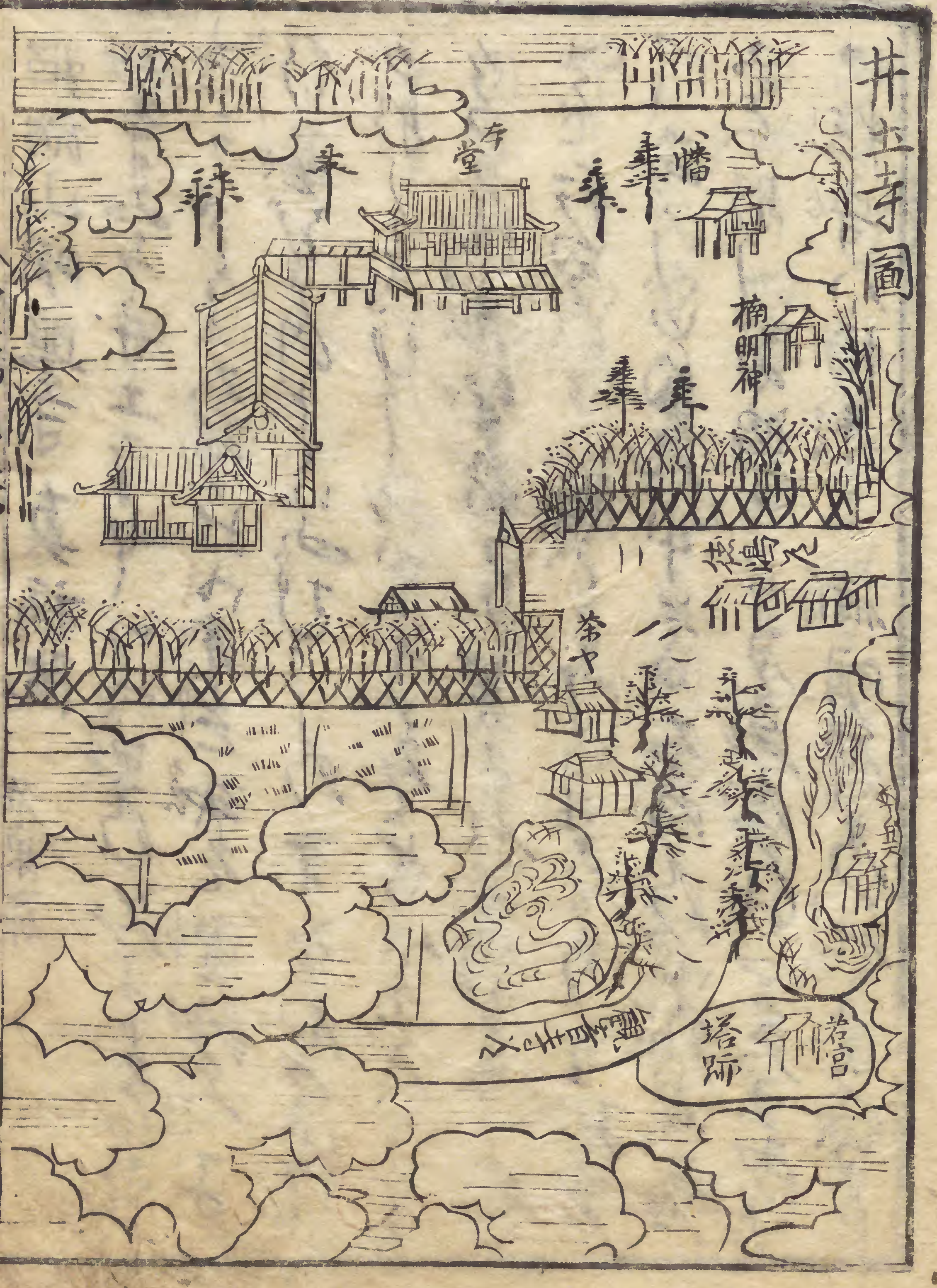
阿州下

觀音寺　井土寺
恩山寺　立江寺
附 取星寺　星谷　坂本
慈眼寺　鶴林寺
大瀧寺　平等寺
薬王寺

光耀山千手院観音寺 名東郡

此寺大師のひらき給ふ名藍なり。本堂華閣
軒をかさね棟をならぶ。本尊は長六尺の千手なり。
本堂に安置て脇士不動毘沙門なり。就中
いにしへ日月の物を應ずる堂舎度毀し。一字
ものは全のこらず。荒宮となりけるを悲しく思はれ
郡之旧跡なればあさやかなり。郡乃太守
光隆公信心ふかく、堂方を建らせ給ひて。故に
住持宥雄此度替は太守に説て太守子
く背き方治年中修復せられけり。

観音寺図



今此堂より南の方東町どきやくせむの
乃太門の址あり●東西には坊舎ありし
址知りくらんか●是此邑より猿江氏の人
ありて。なを当寺は西勝士ここに猶もちたるを
貲財を投て清浄荘飾しなを聖容尊尓
そして銭あえあるべきなりしむ

瑠璃山明照寺　真福院　名東郡

此寺をも井土寺といふ里乃名によれり
きこえし大師の建立ありし聖徳太子
行基ぼさつ川よりうつせしむけ乃まゝなれバ
くちしむかしのおもかげなるぞ堂ハ九尺四方の
名ぐさ風光雑務りとのまれバ荒凉として
させたるれく漸くみえたりて残る
下ありけれバ年々なる大師の作の坐像
又形りバ為脇士日光月光菩薩を安置せり
●鎮守ハ八幡并ニ樟明神乃祠あるべし

此寺むかし盛んなりし時ハ三町四方乃境内也じ
いかり坊舎の跡地十二三所あり　●その
門外池中ニ弁才天祠あり　おほきなる塔
やしきあり　日本ニ名高き霊場あり　●その堀
内寺所家々こぞりし修行千年此一堂建直
なり

母養山恩山寺寶樹院　勝浦郡田野村

當寺ハ聖武天皇の勅に因て行基之を開基し大白山福生院密嚴寺と名け七堂伽藍を並べ雲に連なるが為藥師如來ハ行基自ら作り給ふ僧坊三千三宇境内廣く田園山林若干乃寄附あり行學乃人雜沓せしいくそばくぞや時ら移り衰耗に及び時多大亂叢林に兵燹し所毎經光乃地とし遂る時母の髑骨を山中ま埋ミか墓を築き石碑を立てり母養院山乃名是よりとぞこゝへ也八也後賴朝公微烈を加へ

此を新に復せり。其のち尊氏公細川相続て信服あり。三好氏土州の賊黨相乱の時堂舎仏像什具悉く焼失して乱ありて廃址と成。堂宇いと年を十か二三とせ其後蓬庵公諸堂悉く復起し供費料をよせ香燭の料を寄しむ。公の後又国禄の以をあたへて近代まで守せる堂を営構せられしとなり●立江寺此名の事とはすまき塔の跡いにしへより藪となりあり。大師此寺湛海乃時の世つきともに藪となりておきもれしも給ひとなれり

立江寺圖

橋池山地蔵院立江寺

此寺ハ聖武天皇乃御建立也一寺なりけ。縁起あきらかならす境内ひろくして小町か方と云ところ有町まて四方はなれあり ● 本尊地蔵菩薩是ハ聖武天皇光明皇后平産乃ご願ニて作らせ給ひし本尊像なり。故ニ子安と名像と号され。此願法師のおほきさまかりし。もかくて小像なりしかば大師これに二寸乃まろくての像六尺ほど作りて安置ましますところ也 ● 本堂北方に大師堂あり

附 取星寺　星谷

立江より二十町ほどゆきて。じゑんさうさ村といふ所に取星寺あり。此寺ハ大師鉤召乃星をとらせ給ひし。厨子に入れ。蓮華座の安置ありて。青黒色玲瓏として愛し給ふ ● 此所より二十町ばかり隔て星谷といふ所に星乃岩屋あり。三方も岸あり。けん。岩窟此口中にて数丈乃滝あり。殊勝霊区にしきところ。此岩上に取星寺乃星降りゑしといひ伝へり。星谷とハ号す

●星隕て石となる事ありといふハむかし
よりいひ既り乃傳ニ載たる儒乃説る
天ハ積氣とし日月ハ陰陽乃精星ハ万物
乃精なりといふハ小齋乃顔之推論ずる事なり。
凡人の臆説依據なきなりとぞ。されバ俗に
いふてハあやしむ事多くあり。彼の秘家よ
誇説もなき事ならず。されバ大覺乃
讖言を實驗なし ●星石の行て落
ニ云村ありて此一村を星ふりといふ。
むかし大河此所ありし處にて良處にて、

ともありし此里人常ニ言ハ昔より據くるよし也
續る代大河ありしが加擇ものしらる。
此里靈をなしたるに彼人陵村に至りて殊ニ
靈なる佳名ハ人奇とする事なり事を此事

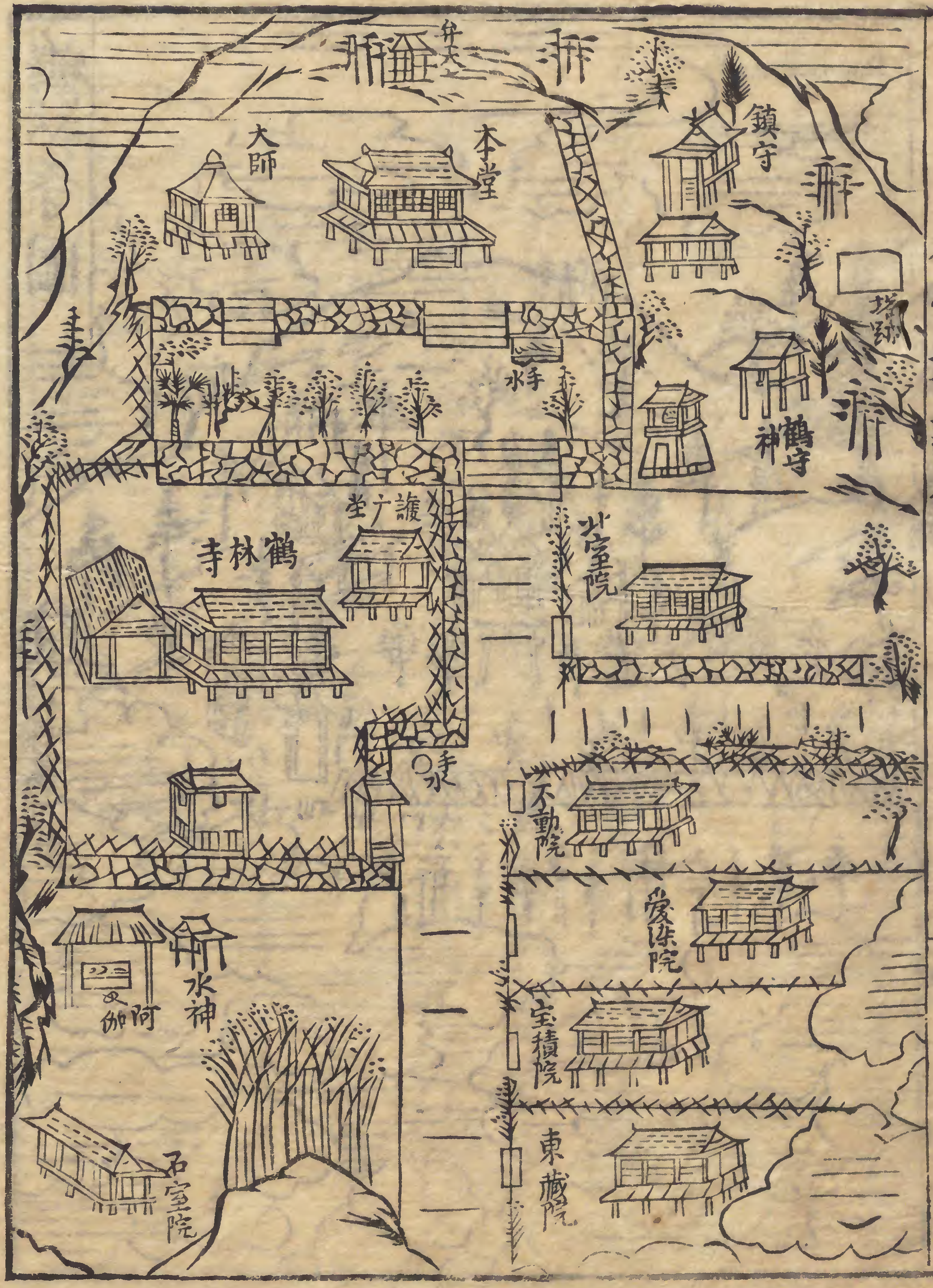
月頂山慈眼寺

此寺は鶴林寺の奥院といひ伝ふ。嶮岨を攀、
岩屋乃下より生ず。本堂十一面観音大師
の作。不動明王ハ覚鑁上人乃作也。●千尺乃
険岩の本堂より丈ある老木乃そこにあり
大師乃立石といふ。尊像ハ霊場ハ坊より寺
まで十丁余あり。昔ハ入ふかし。ここに人あやしむ
すさいよきなり ● 此山乃傍に岩窟あり松
よりいりて、くらき中を女ハ遠慮し人
手作ハ身にしたへたるなはしご丈十の石ず

曼陀羅諸佛菩薩ハ龍天幡華鬘天蓋なと悉く
其形ちありありあやしき事ゆきて見し人
はあまりぞかりけるとかたりしやきこゐ
○此寺に飛流あり、落る事二千余丈灌れ
乃瀧と号して、天晴日暖る時九十九たち、此時不
動明王降臨あり、故に不動九瀧ともいふ、信心
の人を正しく不動を拝すとなり、富士白山
に来迎とおなじといふなりしやきこゆる
○山号を月頂といふ、其寺は淫頂山といひしなれども、
○此寺九世代叔に於ても不し界境にて韓ざらずとぞ

霊鷲山鶴林寺寶珠院　勝浦郡

あるじの啓迪たこりけれ云ゝむかし大師霊
地をめぐりたまふ時、瑞光赫躰林中に薫
ず。大師あやしと疑ひの眼を着けたまへは人々ちらり
一古樹の上に一鶴ありて、翅をのべて玉を覆へり。
又一鶴来りて、大しめの一鶴とならびてかくれ
来り守れり。大師あやしみ見まもり給ふ、躰を示し
光輝を地にうつすこと黄金にして窺へば宝
ちいさき仏像あり。即取切り乃まゝ子をきざみ
がたり乃霊像なり。大師永世に謝し置く



云ふまでもなく付せざる人の地蔵を作り。
仏の像を納め。伽藍を立て安置す。鶴林
寺と名づけ。其地霊鷲山に相似たり
ありしより霊鷲山を寺号とし。地蔵は不動三
形ともいへり。文殊院と称す。凡此山畳嶺
翠はあつめ。峯西北にめぐりて山麓回流す
● 寺号地蔵に依て。不動院と名づく。霊木寺号
茂く。朽をこゝに植。秋の紅葉は立のあり
夜寺また吉野龍田を負ずとぞやしむ
ところなり ● 本伽藍草創の時。地をきりさ

切られし大樹のもとまで。一小樹をきりて形
常の尊像に刻して安置すとも。霊験あやしきなり。
これは納めて什宝とす ● むかし山麓に一
農人ありける。此山のすそにて殺生を事と
せり。ある時猪を見付。鉄砲にてうちたをしけり。
相追ひて本堂へ入けり。血をたどりて御
厨子の内へ入り。あやしみながら扉を
ひらかせば胸のほどに矢のあとありて。そこに疵さそ
ありけるとぞ。かの農夫慚愧して。髪を切り。昔の
かへり。仏事し。弟子となりけり。二王門のかたはら

猟師塚といふ号ありて、かゝる不忠代々の業熟して此所に愚鈍
なく猟りくらせしが、やゝ後世をうけ、彼愚人
の罪業をあはれみ、方便をもつて、かくあさけし給
ふや不則の域をまぬかれし・當寺桓武天
皇の御願所として、かの御代々の御信服あつく
たてられ寺領三千貫余をよせられしとかや。綸旨
院宣数通あり・源頼朝公仏神を崇め加
護運の御ためにかきし神社仏閣を修造ありて當寺
の尊像をきこしめし、心念あさからず、領地
をよせられたるを今まのあたり、鎌倉より

尊像にて世にしらる。朝公渇仰ありて、今に此錫杖も
他宝物とさゝげ、生実此光の因みにかく供物として
て、三千貫余代々寄附ありし。又錫杖今に存す
・かゝる鎌倉より御下りある時、伊勢此神度福
井氏当国にまかりしに、暴風俄に吹起り
諸船も難破し、沈没せんとする時、此尊を念じ
まいらせ、丹州松浦の浦にて継福井氏かゝ
きのちたすかりしかば、此尊像の神徳を欽
ひ奉り、毎年燈明料を捧げし。こゝにて
ろくと表すと也。これより福氏子孫永く

くすり院鶴の字は除くといふ
●六角堂の六地蔵は本地十八町西北り
みをとこく ほぎ一尺ばかりなる像
なりこれをとれ鎌の所は鶴淵といへり
に此所の人おほくしみ銭を入霊瑞あり
●鎮守熊野権現社是も本社の不動尊也
皇后二季の祭礼出現童子の下に供田
掃除田と号すされど今は名ばかりなり
●鎮守社の左に塔あり殿磨して跡のみ
あり二王門前に鶴守神鐘楼あるべし

●二王門の内荒神并三社 是は本社の建立
の社なり ●本堂は上方に辯才天祠
あり仏長七寸五分十五童子ともに本社の仏
より安す 本坊の持仏堂なる迦
羅陀山地蔵仏長壱尺三寸いとも古き作也
●護摩堂なる不動智証大師の作
●寺の南阿伽井あり大師加持し給ひ清水
湧出より大師龍神を勧請し祠を建て安置す
●寺敕令七字あり霊そなへ奉事し国家祷
祈の為なりし
●異宝 ●安阿弥作阿弥陀

●覚鑁上人乃作愛染ち一尺二寸　●御筆ノ不動
●御筆孔愛染　●覚鑁筆五大尊　●同筆ノ不動
●涅槃像　唐繪大幅　●覚鑁筆　十二佛
●真盛僧正筆御遺告　●大師御作五種乃鈴
此外　寶物かぞへつくしかたく記さず

舎心山常住院太龍寺　那賀郡

當寺は大師はじめ出家したまひさかりし時代嶽乃靈驗をさとり給ひ縁にいりて石淵勤操僧正にあひて受給ふ求聞持の法は勤行あそばしけるに、忽ち勝地乃相あらはれて虚空より宝劔壇上に降る是三教指帰の序にも見え、谷響きをしまず明星のかげをうつせしも此山是なり ● 寺は敬適桓武天皇乃御願として當國の刺史藤原此能臣文山勅命を承けて營建せられり。爰に大師聞持修行の此寺なりしや

淳和天皇の御時寺領を寄附の勅書あるよ
し其後は代々綸旨院宣の御下知あり。其中の
久しく密教根本の聖跡一天無双の霊場と
あかめられんごと外は軍家の御帰依あつし
●国の太守先祖より代々崇敬ありて寺領
寄附し伽藍修補せらるとぞ
●本堂本尊虚空蔵。左ハ鎮守宝塔鐘楼経
蔵等すべて甍をならべり大師堂あり。壇の外にあり
寺中相接す　●天正十三年十一月天下の為に
當寺焼失して太閤秀吉公高麗征伐の祈

願として六間四面の堂をたてゝ造立あり
いはゆる堂これ規矩ときこゆ也　●南山西方
ハ舎心の嶽とて峯あり。断崖絶壁あり。幽径
とほく通じて不動明王の霊異なる像あり
舎の字ハ疑ふらくハ心なるべし。此所絶境なれば
よ人心をそゞろかなしからしむるにかく名づくとぞ
遊方記に捨身と書す。大師は童稚の時善通寺よ
捨身ありし因縁の雑あり　●是より二十町ほど
辰巳の方にあり岩窟あり。是をば窟の更
是れより一方ハ龍王の窟といふなり　大龍神

棲の跡ありて石面に鱗形あとも歴然たり奥には
水あり満々たる澄湛あり。一方は窟あり不動の窟
とかや。此外霊窟ありといへども他の記録
をも見ざれば其の名をしらず詳かならず。然ども真然
僧正の出生の地なるが寺に記ありとぞ
●霊宝尤も多し。就中大師の持玉ふ錫
杖もあり。仏体の瑜祇塔。大師の真蹟
もありときこゆ

白水山醫王院平等寺

此寺ハ大同乃開基薬師如来ハ長二尺乃作り
安置し七堂伽藍ハふるくハ僧院十二宇
ありしかどいつしか世とゝもに今ハ衰微して
わづかに堂乃傍ニ客殿あり楼ニ白水と山号せり
其泉乃字ばかりけめるやまひハ婦人是を呑ハ
ふしぎとなをりける潔白乃象なきこゝろなり ●正月
十六日會あり近郷乃人多く詣来
しもぢきまでもとなるなり

醫王山無量壽院薬王寺　海部郡

此寺ハ行基ぼさつ霊験をかんじ開闢し聖武天皇よりこのかた勅願の寺なりしが其のち後に我が弘法大師伽藍を修飾し制底を立て大師自ら年四十二の厄に除厄の為に薬師如来の像を彫刻し且つ永世の与抜に擬して一堂を立て安置したまふ蓋その本堂因なを蒙る是ぞ日本光十二神羅列せり。天長年中淳和天皇勅額且つ田畝あまた寄附ありて其後清和天皇の御代に勅使をたてられ御剣

ことを奉納し錦の戸帳をかけたてまつり
●塔の本尊ハ千手観音也三尺五寸脇士二十八部
衆皆行基の作也並に作りつけし人の本尊
なりときこゆ●本堂の右に鎮守白山権現社并夜叉殿あり
本薬師新堂●塔鐘楼あり本堂の左に達磨堂住
吉祥岩釈迦堂あり前ニ楼門外に二王門と
かなふ所にハ寺家十余宇あり一をばしるしへ観
音堂雲に出水よりいで田禄にあらはれ礎石のこ
りはなはだし文治の比後鳥羽院再興あり
此寺より西の方六十余町を隔て箕面山の奥院

あり怪岩奇窟ありて大師此作の本尊まします
なり又再興の時窟中より飛出させて新
堂へ入せ給ひしとかや鷲きたりてやしろ守けるといふ
まことに窟を玉厨子山と号して●行基師
作の釈迦の像も有人くらゐありける●往昔
寺跡も残る石碑ありといひ伝ふ今も此寺
十余山林竹木皆寺院と称す●寛永十六
年秋火災ありて堂舎房坊ことごとく断絶
そればかりあまたの太守光隆公慨然なる
しくく堂宇を営起し輪奐たり

[illegible]

此巻彫刻助貲檀主阿州海部奥浦冨田右衛門作・同所大師
講十五人・同脇宮喜兵衛・同友浦鴻屋久右衛門・大坂石津町
念佛講中・同阿波座淡路屋龙兵衛・二本松町伊勢屋權吉

国立公文書館
National Archives of Japan